

## ごあいさつ

聖路加看護学園理事長 福井 次矢

2012年度における聖路加看護大学の教育研究活動の記録を関係各位の皆様にお届けいたします。

私が2012年4月1日に当学園の理事長職に就任して、最初の1年間が終わりました。28年間もの長期にわたり、日野原重明先生が理事長を務められた後ですので、うまく舵取りができるか心もとない船出ではありましたが、大学のスタッフ、理事・評議員の皆様のご協力により、例年のように活発な教育研究活動が遂行されました。心から感謝申し上げます。

当大学の役割は、これまでの歴史を踏まえ、優れた看護職の養成と看護界におけるリーダーの養成にあり、それらの目的が達成されるかどうかは、第一義的には、教育現場における日々の教員と学生の相互関係性の中で左右されます。理事長職に求められる役割とはそのような教員と学生の相互関係性が生起する環境をできる限り理想的なものとするものであり、具体的には、経営管理・将来像の提示・人事という3つの側面に絞られると思います。

2012年度中に私が関わった事柄を列挙します。2012年度前半には、大学の大多数のスタッフが委員を務める「将来構想委員会」での真摯な検討の結果を伺い、改革・改善すべき課題が多々あることを認識しました。

8月には、文部科学省高等教育局医学教育課課長と面会し、聖路加国際病院（一般財団法人）を聖路加看護学園（学校法人）に組み入れることができないか、具体的な相談を開始しました。

10月1日付で、山口喜義氏の後任として、事務局長に渡辺明良氏（聖路加国際病院財務経理課マネジャー）が就任し、学園の組織や規程・規則の見直しを精緻かつ精力的に行ってきました。

年度当初から行ってきた毎週月曜日の学長、事務局長とのミーティングに加え、年度の後半には、大学運営会議（理事長、学長、学部長、事務局長、教授2名、事務職2名）を正式にスタートし、大学内の情報を速やかに共有し対応する体制が整いつつあります。

2013年度は、聖路加看護大学の将来像をより具体化、確定できるよう努力したいと思っています。引き続き、関係各位の皆様のご協力をお願い申し上げます。